小倉金之助

年譜

速記文化クラブ
鵜木清子
東京都港區芝田村町四丁目二二番地
電話 芝(43)三六九三番

東東2212
河出書房(20×20)

明治 18 (1885) 1歳

3月14日 山形県西田町 [illegible] 190番地 で生る。

父 末吉 の長男として (28歳) 母は里江 (22歳)

~~祖父 金蔵 (1代) 祖母 しか~~

祖父は44歳!

家は曾祖父 (~~[illegible]~~) の代から田漕業を営んでいた。

小倉系図

曾祖父 金蔵 ~~[illegible]~~
〃 母 菊

祖父 金蔵 (吉蔵 はじめ)
〃 母 志賀

父 末吉
母 里江

(1) 港町の田漕業者へとなった
(2) 曾祖母なお 祖父母が子供を失なかったこと

~~祖父は~~

明治 19 (1886) 2歳

父を失う。~~祖母~~は妹くらよを伴って分家する。

~~私は祖父母の許で養育された。~~

妹 倉代生る。

明治 20 (1887) 3歳

曾祖母 菊死す

~~[illegible]~~ 明治 24 (1891) 7歳

~~曾祖母 菊死~~

母は新し夫を迎へ

祖父5歳!

これより家の 嗣子 或は職業の後継者 の問題。

明治23（1890） 6歳

酒田尋常高等小学校へ入学

酒田の状況　環境と学問

士族の教育

明治24（1891） しま 来る

明治27（1894） 10歳

日清戦争の思い出。

10月 酒田地方大地震。家は半壊かかる。学校は潰倒した。翌年の秋まで他家に同居し、他の学校へ通学す。

明治25年 第一の養子夫婦

明治26年 青森県 [illegible] 仁助 三女 しま（明治27年生）入籍す。

明治29（1896） 12歳

これより二年間

孫の担任は、和島興之助先生となる。

病弱のため、夏 場之田鑛泉へ滞在す。

明治30（1897） 13歳

化学に没頭す。実験。

什数

英語

はじめの養子夫婦（25年-30年）去り、

第二の養子夫婦（30-34年）を迎ふ

明治31（1898） 14歳

3月 酒田小学校高等科卒業。

4月 鶴岡にある山形県立荘内中学校へ入る。

家業に従事させられるので、祖父の旅行留守中に、

寄宿舎 一ヶ月 3円50銭

鶴岡 — 士族的

酒田 — 商人的

明治 32 (1899) 15歳

八月 赤痢にかかり半年間療養す。 著作 Ostwald Nernst

学友会 一子様 北野

明治 33 (1900) 16

化学物理を学らとし，数学，英語以外は，殆んど他の学課を顧みず。 [家業の後継者に擬せられた] 祖父母の養子石蔵(約35歳)家出す。

大川

明治 34 (1901) 17

中学を卒へれば家業を継がねばならず，しかるにわれは化学に専心したし，色々と思ひ悩む。 [第二の養子夫妻去る] [祖父 61歳]

東京学校新法

明治 35 (1902) 18歳

意を決し，祖父の許可を得ずに，上京す。 東京物理学校に入る。 3月 校内中学を卒業して (祖母の了承の下に)

物理優秀なれど特待を与へず。

明治 36 (1903) 19

物理学校に通学の傍ら，獨逸協会専修科に入って，一年間ドイツ語を学ぶ。 (物理学校，力学の講師) 桑木彧雄先生の感化を受く。 春夏，気管枝カタル を患る。

日露戦争

明治 37 (1904) 20

物理学校の傍ら，9月から大成中学校五年級に入学す。 二つの学校に通学するのは中々容易でなかった。 (熊谷直治) 井上 子爵家 移植 平田 (神田明神の宮司) 国文法

この年はじめて東京物理学校新法に寄稿す。

[三上義夫氏を知る] (山下弘太郎)

明治 38 (1905)

21

2月 東京府立第子校 [redacted] 卒業 (全科)

3月 大成中学校 卒業

5月より8月まで 正則英語学校に入学 (日本語学校)

5月 家庭教師

9月 東京帝大、理科大学化学選科に入学。 池田菊苗先生の厚意 [redacted] によること多し。

明治 39 (1906) 22

一 ~~毎月~~ 早春以来 健康すぐれず、他方 祖父の老弱にて 家業思はしからず。 [redacted]

4月 郷里に帰る (学校を退く)

6月 しま (通称 すみお) と結婚 (藤巻仁助の女、四歳のときから、わが家の養女となってゐた) 青森県

この頃より郷里に帰るときは、[redacted]

~~書肆~~ 堀 青山堂書店に [redacted] 出かけ、小説その他の新刊書を買ふ。 (毎月)

[redacted]

11月 東京に出づ。 はじめて 林髞 [redacted] の指導を仰ぐ。

~~兼業の事故を考へ~~

当時の林先生の略歴

30年 東大卒 高師の講師
31-32 京大 理工科大学助教授
32-34 松山中学校 校長
34 (11月) 東京高師 講師
40 教授
44 東北大学教授

明治 40 (1907) 23

この年の大半は東京にあり、いよいよ学問の専攻に志す。

5月 長男 長義生る

Encyk. d. math. Wiss.

高木

林鶴一　三上義夫

明治 41 (1908) 24

この年より東京数学物理学会にて論文の発表をはじめる。

1月「二つの種類の曲面について」(東京にて)　最初の論文

6月「同一曲率を持ち、しかもdeformableなる二つの曲面」(浦田にて)

4月帰郷、病床より起つ。[これより生涯病がち 自宅で研究に出発する]

この年の大半は浦田にあり。

秋、船長と共に出京、自費(カケイヤッカン)渡米する許可を受く。

明治42(1909) 25

5日 二葉亭死

永井荷風 日本へ帰る 社会 Kellyの家族訪問

「監獄署の裏」発表 改造

6月「W-曲の[redacted]について」(沢田氏と)

山下安左衛門 高橋三蔵 共訳「ケーニッヒ氏解析学講義」の「アルゲブラ」を草す。(沢田氏と)
(~~明治43年刊行~~) 単行本に署名した最初である。(翌年刊行)

~~11~~ 9月 [redacted]家用のため新潟に赴き、~~11~~ 12月帰宅

これよりいよいよ数学を職業とすることに決心す。

[10月 伊藤博文殺される]

この年論文3篇

明治43(1910) 26

出京、

2月 東京帝大の講師となる。(数学)

政治社会に起がる

政治 国粋主義 乱暴な満州

7月 多項式の[illegible]の拡大について」

この年論文3篇

10月より「級数概論」の起稿をはじむ

明治44 (1911) 27

3月 東京帝大理学部を卒業。

4月 旧東北帝大助手(物理教室) → 仙台に移住。

妻、英子と共に

はじめ好々として動いたが米ヶ袋中丁に定住。

8月 「東北帝国雑誌」発刊。これより大正6年春までその編輯を手伝う。

「コーシーの凝集判定條件について」

大正1 (1912) 28

1月 祖父を失う(71歳)。祖母が郷里酒田を引上げて私と同居に決す。

「ある物理学上の・・・に於ける仮説とその考察について」

8月 酒田に帰省。(引上げの準備)

11月 「物理学概論」刊行。處女作である。

林鶴一先生と共著

大正2 (1913) 29

酒田を引上げ
~~和田~~ また仙台に移って同居す。

4月 臨時教員養成所講師 嘱托となる。 講義

2月 「ルーシュとフレフィルニュース 初等幾何学」第一巻 刊行 [第四版(大正8年)をもって定本と見做してよい]

「ローシュの変換の幾何学的解釈」(弘新教会)、「方円の幾何学の若干の問題」

大正3 (1914) 30

4月 臨時教員養成所講師 講義

8月 「サーモン解析幾何学」刊行 [第四版(大正13)をもって定本とす]

8月 「文検問題の批判 ならびにその改良私見」を草す。(大正6年「帝国教育会検定試験委員代の和字」に発表)

大正 4 (1915)　31

3月 「ルーセエ コンダルース」「初等幾何学」第二巻刊行 [第四版(大正13)をもって絶版とする]

4月 大学講師となる。「講義」をはじむ。(代数解析の)
片平町に移住す。

「保存力場に於ける経路」(1915-16)

10月 学位論文「保存力場に於ける経路」提出

大正 5 (1916)　32

「二元二次式の基本の定理」,「直線群の微分幾何学」(東北大学理科報告)

「交叉の微分幾何学について」(東北帝国大学)

大学の講義(射影幾何)

8月 理学博士の学位を受く

9月 柳原吉次郎氏著「初等幾何学講義」第一巻,刊行(この書は絶版)
柳原氏の序にもあるやうに,
クラニカーの問題や歴史的の事柄については,私の書いた部分が相当に多かった。)

大正6 (1917)　33

三月末 仙台を去って，大阪に到着す

4月末 大阪医科大学教授（4月23日）
塩見理化学研究所研究員（数学部長）（5月28日）をへて，大阪に移住す。（校舎上の理由は4月開校）

4月 大阪府下池田町（現池田市）に住む
室町1番丁

中之島の校舎で
医大豫科の講義をはじむ。

「中心力の場の変分学」
「表面の構造の研究について」

大正7 (1918)　34

「変点力学の変分学的研究」
「二元論と双生説」
「非可逆力場における径路」（「力学における正路曲線」数物）
「近似式の数値的解と応用」

大阪医大における（医学士資格）講義にて，統計法を講ずはじめて

この秋から医大豫科の校舎が石橋の待兼山に新築され，塩見研究所の仕事はその一室を借りてはじめることになった。

大正8(1919)　35

「ミニチュッケル曲率について」「補間法について」

5月「バーレー和分代数学」刊行

武田松次郎氏と共訳

5日「理論数学と実用数学との交渉」(物理学科同窓会にて講演)

帰途 長野県 上田の中学校数学教員協議会にて講演(ノモグラフィー)

津村文次郎氏「グラフと其の応用」の著述編纂を助ける(大正9年刊行)

それは私の序文にあるように、共著というのは正当でない。

尤も後の版では、私が専ら校訂に当った

3月14日 欧米各国へ出張仰せ付けらる(内閣)。けれども

船が満員のため出発が遅れる。

12月 神戸出帆、フランスに向う

大正9(1920)　36

1月 マルセーユ着、パリに向う。翌日の夜 パンテオンの傍のホテル・グランゾガンに宿す。

8月まで 専らフランス語をまなぶ。

9月 ストラスブールの国際数学者大会に出席す。

冬夏学期 コレージュ・ド・フランスのアダマールのセミナル、ラレモンヴァルの講義(相対性理論)

ソンボルスのボレーの講義(気体論)

大正10 (1921)　37

~~[illegible]~~　~~[illegible]~~

・アインシュタイン, ワイル, エッゲントルを読む

夏学期　アダマールのゼミナール.
ソルボンヌのカルタンの講義(積分不変式)

・「重力の場について」

12月：マルセーユ出帆. 帰国の途につく

大正11 (1922)　38

1月　北野丸にて神戸に着く. 大阪造兵廠の一隅にて, 塩見助教授の研究所の研究を開始する.

4月　東京(専門部)より仙台に赴いて帰阪す. 大阪造兵廠の講義をはじむ. 各学年に三回宛あるので, 同じ講義を三回繰返さなければならぬ.

8月　物理学特別講習会(林倉博士と共に東京, 高松, 鳥取)「図計算から図表」

11月　アインシュタインの講義を聴くため東京に行く.

~~[illegible]~~月 11　大阪府下中学校教員数学研究会

大正12（1923）　39

3月「図計算かい図表」刊行　　数学教育協議会輯報

~~4月 数学教育協議会~~「動の概念」刊行（~~岩波~~）

7月　日本中等教育数学会講演「数学教育の要旨」

8月　数学教育協議会（関西支部 正造博士と同伴、東京、大阪、鹿児島）「微分積分学」「解析学」を学ぶため

9月　関東大震災

11月　大阪府下実業学校設置

（大阪から京都。）

この年から翌年にかけ、工業能率増進のための講習会にて、統計法を講ず。（米国に立る）

大正13（1924）　40

3月「数学教育の根本問題」刊行

3月下旬　満鉄に入る（東京を経て川崎、仙台）

家用のため

8月　4年講習　皮下溢血。これより強き性格を変ず。

9月　赤穂にて小学教員に数学教育を説く。（これをもって数学教育の講習は最初とす。）
信州

12月　篠井、高山研究にて講習（長田新氏と）［その事業記録はモナス「新教育」に出づ。数学教育改造の基調（大正14）］

~~回想録~~ 41

大正14 (1925)

~~4月 [illegible]~~

6月 30日 埋定研究所 研究部長となる
(青水武敬氏の後任として)

5月 城崎 地震

上田
8月 [illegible] 病気

6月 「統計的研究法」刊行
この書の校正中から健康に異状を来してゐたが、続いての秋から肺門林巴腺炎のために、半年間病床生活に至る。(~~[illegible]~~ これより以後、冬期 寒冒 ~~[illegible]~~ のため毎年 ~~[illegible]~~ 病床 ~~[illegible]~~ 苦しんで 若干回 病床するやうになった。)

大正15 = 昭和1 (1926) 42

この一年間は ~~[illegible]~~ 療養生活に終る
(蜷川虎三氏の「~~[illegible]~~統計学」の編集に手伝ひ)

埋定研究所 新築落成

5月 31日 病気のため 大阪商科大学教授を辞す。 埋定研究部 専任となる。

病間を利用して、「数学教育法著書」の編輯をなす。

(6月 石井寿吉氏訳「ボレー代数」刊行)

夏期 鳥羽に静養

(佐藤良一郎「ボレー代数」)

[和歌 14年9月
3ヶ月 15年7月]

11月 福山師範に講演

昭和 2 (1927) 43

療養生活

夏 鳥羽に静養、白濱

(新宮恒次郎氏「ラッダ・クラーク和算教育の基礎」刊行)

この秋から健康やへ快復す。井出南内氏「かどより算学史」の下訳に訂正増補を加へ、更に三上義夫氏の校閲を求む。

10月 富山、赤科へ講演

勢海寺(L)

昭和 3 (1928) 44

(石井、「ボレル平面三角法、ナヒ地図整位法」刊行)

2月 近藤鷲氏と共訳「ザンデル実用解析学」刊行

9月 井出南内氏と共訳「カどより和算数学史」刊行。この訳する仕事から数学史に興味を持つやうになった。

この年健康割合よし。数学教育に関する各地の講演に赴く。[淡路、徳島]

10月 倉敷小学校に赴く途中、プーハンツ「階級社会の基礎」を読む。

夏 白濱へ

昭和 4 (1929) 45

1月 祖母を失ふ。 9月まで病床にある。
6月 算術の社会性
7月 階級社会の算術 (その一)

11月 〃 〃 (その二)

夏 勝浦、白浜

11月 「ペリー和子実用算術」の序
新宮恒次郎氏

祖母の遺骨を收める。
~~祖母の遺骨を納める~~ 帰郷、 滿田、~~[illegible]~~
~~[illegible]~~ 仙台、東京を経て帰阪す。
化学研究室をおわる。

[三木清を知る]

年末別府へ

昭和 5 (1930) 46

2月-4月 「階級社会の数学」
(新宮氏「ペリー和子実用算術」刊行)

8月 「数理統計」(改造社版、経済学全集、35巻、統計学)
刊行

夏 山陰へ (岩井、東浜、三朝、浦富、城崎)

この秋から日本数学史研究の蒐集をはじむ。

[戸坂潤を知る]

~~[illegible]~~ 別府へ

昭和 6 (1931) 47

年初 別府へ

春以来 病状

5月 上旬 広島文理大にて「数学史」を講ず

6月 中旬より「数学教育史」

夏 自宅

(満洲事変起る 9月)

(小倉 「ヤンケ、モンガレ 和字の研究」)

10月 広島に講演「数学教育」

11月 大阪にて第七回日本学術協会開催

昭和 7 (1932) 48 武田尾温泉から

大阪帝大開学

5月「数学教育史」最後の原稿を送った (小倉 1)

6月「数学教育史」刊行

8月 沼本主宰 教育史講座に「数学史」

(平野 (服部 と 藤原) 洞ケ峠 を知る)

10月 日本 日本大学講演 「数学教育」 唯物論研究会 起る

3月「数学と教育」(岩波講座, 教育科学) 刊行

中国 数学史料の蒐集をはじむ

11月 数学、社会・歴史

12月 阪大 理学部講師となる。

矢 別府

昭和8 (1933) 49

4月 イデオロギーの発生(数学)

~~本学部の改大の講演「実用解析学」~~

7月末より8月かけ 高崎講演

10月 物理学校の講演(化学)

11月 相対論的数学の国際化と産業革命

12月 支那数学の社会性

昭和9 (1934) 50

2月 「科学史の意義」 本学部改大の講演「~~数学~~」実用解析学

6月 「数学の教育の改造問題」(中等)を起草する

教育改革による文部教育防止のため

8月 防衛, 鬱島, 青島 (講演会, 指導)

大阪社会問題研究所における社会政策学院の設立経緯を講演

10月 物理学校の講演(化学)

11月 「科学技術とノモグラフ」工

年末年始 下加茂温泉

昭和 10 (1935) 51

1月 下加筆して 「日本語教育の歴史性」

本年慶応大の講演「~~実用解析~~」 統計

5-6月 岩波講座「語学」の中, 「計算法ないしモノグラフィー」(II)

なお「語学教育」

6月 台湾

夏 通田 涼の田, 伊吾保, 黒部

9月 語学と民族性

10月 林鶴一先生逝去 (松江, 仙台へ赴く)

12月 「語学史研究」刊行

年末年始にかけて 伊東

昭和 11 (1936) 52

二二六事件の発生 長く病床にあり.

本年慶応大の講演「~~統計法~~」 実用解析

慶大夏期講習会「日本における近代的語学の成立過程」(六月末)

7月末/ 上京

10月 物理学校へ講演 (統計法), 新潟の講演

11月 自然科学者の任務

年末年始 伊東

昭和 12 (1937) 53

3月 岩波の大衆化

3月 埴谷雄高 文化学研究所を辞す

6月30日 東京に移住する, 7月12日 歓迎会

7月 「科学的精神と哲学教育」出版

7月 支那事変勃発

8月 満州 伊香保 上林

3月 孫 紘一生る

10月 阪大講師(妻同伴)

12月 東京帝大教授となる

「日本社会の特殊性」, 「封建社会の構造」

本郷帝大の講師 「~~実用経済~~」(経済)

5月 東京に家を借る

平田定男を知る

昭和 13 (1938) 54

熱川温泉

1月 「支那社会の停滞性」 報知新聞

4月 「支那社会の停滞性」

5月 阪大にて講演 「~~経済学~~」 実用経済

「現代日本の社会のために」(中公, 6月)

「哲学教育の再建」(共立社, 満州 6月 11月刊)

岩波新書

8月 伊香保

8月 孫 純二生る

9月下旬 大阪哲学会に講演「哲学教育と哲学の大衆化について」

10月 阪大にて講演 「~~経済学~~」 実用経済

10月中旬 名古屋哲学同盟にて「~~専門~~ 教育における哲学の革新」

11月 「家計の哲学」刊行 [批評]

~~1月~~ 12月 小学算術書に対する所感 (女師附小にて)

昭和14 (1939) 55

蓮台寺温泉

2月-3月 肺炎を病む

4月 民間学術協会 会を作る

~~5月 阪大講演「計算法」~~

日本民俗学

~~4月-5月~~ 5月 東京帝大を辞職する ~~出来~~ に当選せるも、あまりうるさいので二ヶ月後

~~[illegible]~~ 辞表を提出する。それでも中々許可されず、半年位ずっの後

やっぱり辞任も断る

6月 酒田市へ講演会。妻同伴。母をつれて帰京する。

下旬 郷里

ノモンハンヂイケ (5月-9月)

7月-8月 伊香保 (母、妻、欣一) (母は九月までも滞在)

9月世界大戦

10月 阪大講演「西洋哲学史」

11月 ラジオ放送「日本の哲学」(五日、南)

12月「科学の大衆化」(日比)

12月 伊東へ。欣一病めるもよくて早く帰る。

~~年末より一月にかけて欣一と同じく病む~~

12月「支那思想と日本文化」「ものの考え方の問題」についてのディスカッションの会。

~~このころか、平田宏「古代科学」ハイヤールの古きものの伝~~

昭和15 (1940) 56

3月「日本の哲学」の校正を終って

~~3月~~ 伊東へ

民生常

この年 満洲国 ~~[illegible]~~ 哲学教科書編輯の委員となり、11月に師範学校教科書の編輯に協力し、編輯主任となる。

翌年 ~~[illegible]~~ 啓之助

大矢氏一見を申されたる。

3月「日本の哲学」刊行

5月 法政大学文学部へ、絶計を講ず。(10日、南)

5月 阪大講演「日本哲学史」(支那学)

中旬より

和辻

教科書村の用語統一のための長い成功。

7月 ~~[illegible]~~「教科書と哲学」(岩波講座「教育科学」)

8月 日民学術協会分南講座(現代文化の問題)「哲学教育の革新」

10月末 阪大講演「計算図表」「明治哲学史」

10月「計算図表」刊行。

経営および財務のため

11月 東京教育大学教授兼長となり、多忙となる。

~~[illegible]~~

11月 ~~[illegible]~~ 幹事

57

昭和16（1941）57

熱海

3月 孫 信三 生る

4月「現代下における科学者の責務」（中公）。

5月 阪大講師 「統計法」 大毎文化講座「科学の日本的性格」（17年12月刊）

6月 明治以来の科学 「日本科学への要望」（科学主義工業，8月）

8月 修善寺に静養（すみ子，欣一，純二，あつ子，信三）。

9月 日本出版文化協会 図書 推薦委員会 （翌一年間）

10月 阪大講師「統計法」

12月8日 太平洋戦争 勃発

12月末 欣一と同時に病床（欣一入院）

58

昭和17（1942）

1月末より3月末まで病床。 熱海に静養。

4月中旬より熱ある病いかい慶應病院に入院 2月末まで。

7月 修善寺に静養（すみ子，欣一，純二）

9月より翌年1月まで 胃酸過多症にかかる

（日本科学史）

9月—10月 阪大講師 胃痛のため困難を極む。

この一年はまるで病気に明け暮した

と物理学科の用務

科研新体制確立要綱 5月27日

科学史学会成る。 4月下旬

日本科学技術会議会の審議長を始め国の委員会を開いたが，8月施行の為の総会を停止す。

「中学校，高等学校教科目の刷新」（朝日，4月）

国民生活協会（生活協会）設立

日本科学史学会の準備会より，

日民生活協会 「日本人の思想」 9月 1月頃 陽定

大学問題委員会

昭和18 (1943) 59

3月 孫三人 麻疹にかかり, 信三郎も重し.
すみよ, 欣一, 紘二も共に長岡, 修善寺, 伊東に赴く.

6月 阪大講師, すみよ同伴
(計算同表)

この年も不健康と
疎開子村の用務の
忙しく, 疲れに苦しく
陥ってしまった.

8月 (すみよ, 欣一) 伊東

8月 大阪帝大講師を辞す.

10月 東京疎開子村理事長を辞す.

11月 ——— (幹事)

9月 日民学術協会 洋行委員会での講演「戦争下における
疎開子村 —— 初期のエコノミ, ポリティクスについて ——

12月 末より「戦争下の数学」の原稿を整理する.

昭和19 (1944) 60

2月 戦争の経過を思い, 自著 欧文数学論文
(-3) の整理を始む.

6月 · 西田市に帰省.

「戦争下の数学」が戦前の大学, 創元社から出版されたもの.
中央公論社「日民学術叢書」の確定の時, 社

8月15日 西田市寺町 正傳寺 に疎開 (妻と三人の孫をかかえて)

出版 さん協会

11月 「戦争下の数学」刊行

昭和20 (1945)　61

2月末より気管支を病み、病床にて満60歳を迎ム。

4月末 妻と共に東京より疎開する。

学童疎開のために、諸方へ
再疎開の地を求めた好里。
山形県西田川郡補連村

6月末 酒田港へ機雷投下された。

7月 妻と共に孫三人をつれ黒森に疎開。　8月10日 艦載機の空襲を受ク。　酒田市

10月 酒田市北千日堂前に移る。

黒森より

10月 母(里江)を失ム。

文筆春秋

10月「疎開先より」(1946, 1月)

8月15日 終戦　10月末 息子夫妻 東京に帰宅ス。

12月27日 東京に帰る。　われ等全部

昭和21 (1946)　62

1月 民主主義科学者協会会長　その時より

3月「自然科学者の子者」(世界 4月)

4月「科学者と民主戦線」(中公, 5月)

5月11日 胃潰瘍にかかる。

孫

3月 母理子生る

母の胃痛を傷ム

1月「科学教育の子者」(新世代, 4月)

2月「科学教育の民主化」(評論 5月)

5月によって病人と全回快。

3月末に放送協会会長の就任を辞ス

5月 日本放送協会顧問就任

7月 戦争調査局参與

10月-11月 自然科学論文整理を始ム。

11月以来 しばしば風邪にかかる。

10月「科学の指標」(中央公論社) 絶刊

7月「国計民生と図書」 再刊

9月「若き科学者の新しい問題」 再刊

4月 科学者史上に残る民主主義 (自然 6月)

5月 科学教育の厚生的基礎 (自然 6月)

昭和22(1947) 63歳

1月 「計算図表」再刊

3月 「明治時代の数学」を改訂，理学社に送す

4月「法書の思い出」(書評，7月)

4-9月 「数学史研究」第二輯のための書下しの原稿を書く。 「明治数学史の基礎工事」をはじめ10月20完了。

~~5月下~~ 5月「里数はどこから来たのか」(別冊文藝春秋10月)

冬以来しばしば風邪にかかる。

7月31日 急性肺炎にかかり，二回病床に臥す。

7月 日本民主主義文化連盟の常任委員長に推される

7月末 学術体制刷新委員に当選す。~~毎月~~ それより 総会毎に出席す。(しばしば)

10月 「明治時代の数学」(理学社) 重版

9月 「数学史研究」第一輯(岩波) 重版

10月22日 文化連盟拡大協議会で報告す。

10月20日「数学史研究」第二輯の原稿を渡す。

間もなく寒冒れて一ヶ月ばかり臥床。

12月21日 急性肺炎にかかる。

昭和23 (1948)　64歳

1月中旬　肺炎が直ったが、2月中旬から再び肺炎にかゝる。　5月末よりやく庭に出る位、6月歩く。

3月「一数学者の記録」の原稿を酣燈社へ送す。
5月「　　数学の刷新」を大阪教育図書株へ送す。
5月「ザレデル　実用解析学」訂正版刊行　会社

7月下旬より10日間すみと同伴、熱海ホテルに静養。

10月下旬から寒冒にかゝって年末まで病床

11月「数学史研究」第二號刊行
12月「一数学者の記録」刊行

4月　日本科学史学会　会長になる
~~文化連盟の責任ある地位を去る~~

昭和 24 (1949) 65歳

1月 温暖のため 起き出す

2月から寒冷、3月18日 帰京、4月下旬から起き出したが、中旬、全快へ至らず。

2月 文化連盟の責任和地位を去る

4月下旬 (物理学会) 理事会長となる

「若子教育の刷新」 3月上旬 刊行

7月上旬 伊東へ

2月-3月 8月 「一学者の回想」を口述

No.

一、数学史研究 第二輯（東洋数学史展望 明治数学史基礎工事）（科学的なる数学史の建設）

三千　二三、一一、二五　岩波書店

二、数学者の記録（自然科学者の任務等）（数学に関する評論及随筆）

四千　二三、一二、五　雄鶏社

一、数学教育の刷新（数学教育改造論）（数学教育に関する論文集）

二千　二四、二、三五　大阪教育図書株式会社

第一　地位

(イ) 東京理科大学理学会会長

(ロ) ナシ

二　小倉金之助

三　ナシ

四　明治十八年三月十四日

五　山形県酒田市

六　一、七一、未

七　四、又

第二　身

八　近視

九　東京都杉並区馬橋二丁目一三番地

一〇　〃

一一　該当事項ナシ

一二　該当ナシ

機何學原稿用紙

第一一頁 神田氏

著書

書名	概概	目的	発行月	発行者	発行部数
数学教育史	十六世紀以後の改革運動、幕末以来の日本の数学教育	数学教育史の更改	七・六・二五	岩波	四千
数学史研究	世界数学史の展望、近世改革数学史、諸国面白い数学の活動面	科学的数学史の研究	一〇・一二・一五	岩波	三千
科学的精神と数学教育	数学教育の真の目的、科学的精神の涵養、任務、その他	科学的精神の培養集	一二・七・五	岩波	三千
家計の数学	学問とその数学、収入と生計費、科学的の計算、その他	科学の大衆化	一三・〇	岩波	五万部
日本の数学	和算の歴史、和算の特色、西洋数学の輸入	科学の大衆化	一五・三・三〇	岩波	三万部
計算国表	二変表の国表、三変表の国表、多変表の国表	ノモグラフィーの普及	一五・一〇・一五	岩波	一万五千 三万
明治時代の数学	「学術の日本」の一年、明治以来の日本の学術を省みる、西洋数学の輸入、日本の科学に及ぼす数学の中立性、その他		一七・四・二〇	中央公論社	三千
戦時下の数学	戦時下に於ける科学技術者養成（実験室・工場・ラボラトリー）その他	戦時下に於ける数学研究からの教育問題、歴史的に考察したもの	一九・二・一〇	創元社	六千
科学者の指標	自然科学者の反省、科学教育の民主化	科学者に関する評論及び随筆集	二一・八・二〇	中央公論社	七千

現代語譯日本科學文化古典叢書原稿用紙

大成中学. 38年 3月卒

物理学科 38 2月卒.

東北帝大 助手

大阪医大 教授

理化学研究所 研究員 仁科所長

大阪帝大 講師

物理学科 教授 長・幹事.

東北帝大 (仙台市片平丁) 明治44年4月 - 大正6年4月

大阪医科大学 (大阪市北区中之島) 大正6年5月 - 大正15年5月

理化学研究所 (大阪市西島区堂島三丁目) 大正6年5月 ~ 昭和12年3月

大阪帝大 (北区中之島) 昭和7年12月 ~ 昭和18年8月

東京物理学校 (牛込区神楽坂) 昭和15年11月 ~ 昭和18年11月

(一)

イ

一 該當ヲ欠ナシ

二 小金井ノスケ 金之助

三 該當ヲ欠ナシ

四 明治十八年三月十四日

五 山形縣 酒田市

六 一・七一米

七 四五 紙

(五) 一五

該當ヲ欠ナシ

(七) 一七

該當ヲ欠ナシ

(二)

八 近刊

九 東京帝大馬場 二十日 一二時

一〇 該當ヲ欠ナシ

一一 該當ヲ欠ナシ

一二 該當ヲ欠ナシ

(三) 一三

塩見理化学研究所長 (大正十四年五月より 昭和十二年三月まで) 経営研究指導

大阪帝国大学理学部講師 (お茶の清水) (昭和七年十二月より 昭和十八年八月まで)

東京物理学校教授 (お茶の清水) (昭和十二年十二月より 昭和十六年十月まで)

(四) 一四

(イ) 該當ヲ欠ナシ

(ロ) 該當ヲ欠ナシ

(六) 一六

4 日本科学史学会 (昭和十六年五月一日) 明治四十年 業績

日本数学物理学会 会員 (要職ヲ占メタルコトナシ)

(八)

民主主義科学者協会 会長 (昭和二十年一月 [illegible])

日本科学史学会 会長 (昭和二十年四月 [illegible])

(九) 一九

(一〇) 二〇

(一一) 二一

(一二)

「補助紙」 第二頁 著述 八 補助紙

数学教育史 抵抗 目的 発行日 発行者 発行部数

数学史研究 著者 書名 七・六・二五 岩波書店 四千部

一〇・一二・五 岩波 三千部

科学的精神と数学教育 一二・七・五 岩波 三千部

家計の数学 一三・一二・二〇 岩波 五千部

日本の数学 一五・三・三〇 岩波 三千部

計算図表 一五年 一〇月 一五 岩波 一万五千部

戦時下の数学 (学術の日本) 一七・四・二〇 中央公論 三千部

戦時下の数学 (一九・一一・一〇 創元社 六千部)

研究 教育を 天皇の下に 探求しよう

戦時下に於ける科学者の採るべき態度 (一九四〇年のエコール・ポリテクニク) [illegible]

東京物理学校 (財団法人) 東京殖産学校 (財団法人) 国民学術協会 (財団法人) 国民生活協会 学校経営 昭和十五年十一月 [illegible] 昭和十六年十一月 [illegible] 昭和十八年十一月 [illegible]

(一三) 海外

フランス 大正八年十二月 ～大正十年[illegible]月 数学研究

(一四) 備考

ナシ

研究の表彰 [illegible]

廿一年四月十九日

廿一年十二月十日

特殊技術の革新 [illegible] 協会の用語集 十五・八・一

統計學文庫用箋
400字

正六位

昭和三十八年二月　東京物理学校卒業

明治四十四年四月一日　東北帝国大学助手を命ぜらる（東北帝国大学）

大正六年四月二十三日　存立大阪医科大学教授に補せらる（文部省）

大正六年五月二十八日　財団法人塩見研究所数学部長を命ぜらる（大阪医科大学）

大正八年三月十四日　改正令国へ出張仰せ付けらる（内閣）

大正八年十一月二十二日　大阪医科大学教授に補せらる（文部省）

大正十五年三月二十一日　銀行業務（大阪医科大学務局部長）（内閣）

大正十四年六月三十日　財団法人塩見研究所長を命ぜらる（大阪医科大学）

昭和十二年三月三十一日　銀行業務（塩見研究所）（塩見研究所）

昭和七年十二月一日　大阪帝国大学教授を停職せらる（大阪帝国大学）

昭和十八年八月三十一日　大阪帝国大学教授を停職を解かる（大阪帝国大学）

昭和十五年十月　財団法人東京物理学校理事長となる

昭和十八年十月　東京物理学校理事長を辞す

25×16
(東東 60)

ルーシエ コンバルス	初等幾何学 巻1	大正2年2月	山海堂	Eugène Rouché et Comberousse	Traité de géométrie (7 éd). 1900 Gauthier-Villars
〃	〃 巻2	4年3月	〃	Charles de	
サーモン	円錐曲線解析幾何学	3年8月	〃	George Salmon,	Treatise on Conic sections (6th ed). 1879. Longmans, Green
ブーレー	初等代数学 [東武迪松衛共訳]	8年5月	〃	Carlo Bourlet	Leçons d'algèbre élémentaire (6. éd) 1909 Colin ~~Hermann~~
ザンデン	実用解析学 [近藤鶯共訳]	昭和3年2月	〃	Horst von Sanden	Praktische Analysis (1. Aufl.) 1914 Teubner
カジョリ	初等数学史 [林鶴雨共訳]	昭和3年9月	〃	Florian Cajori,	History of elementary Mathematics (2 ed) 1917 MacMillan

河出書房 (20×20)
集英2212

小倉 (邦文) 主要著訳書

級数概論 (林鶴一共著) 大正1年11月 大倉書店 (1912)

ルーシュ コンガルース 初等幾何学 上巻 大正2年2月 (1913) 山海堂
下巻 大正4年3月 (1915)

サーモン 円錐曲線新幾何学 大正3年8月 山海堂 (1914)

ブーレー 初等代数学 (武田松衛共訳) 大正8年5月 (1919)
山海堂

図計算及び図表 大正12年3月 山海堂 (1923)

数学教育の根本問題 大正13年3月 イデア書院
[玉川学園出版部] (1924)

(四〇〇字詰)
幾何學原稿用紙

統計的研究法　大正14年6月20日　積善館
(1925)

ザンデン　実用解析学（近藤鶩共訳）　昭和3年2月
山海堂　(1928)

カジョリ　初等数学史（井出俔門共訳，三上義夫校閲）
昭和3年9月　山海堂　(1928)

数学教育史　昭和7年6月25日　岩波書店　(1932)

数学史研究　第1輯　昭和10年12月15日　岩波
(1935)

科学的精神と数学教育　昭和12年7月5日　岩波
(1937)

家計の数学　昭和13年11月20日　岩波　(1938)

(四〇〇字詰)
幾何學原稿用紙

日本の数学　昭和15年3月30日 岩波　(1940)

計算図表　昭和15年10月15日 岩波　(1940)

学術の日本
[明治以前の数学]　(国民学術協会編，高橋秀一郎，小泉丹 外二氏共著)
昭和17年4月20日 中央公論社　(1942)

戦時下の数学　昭和19年11月10日 創元社　(1944)

数理統計　(改造社，数物学全集，統計学上)
昭和5年　(1930)

科学の指標　昭和21年10月(1946) 中央公論社

明治以前の数学　昭和22年5月(1947) 理学社

数学史研究 第二輯　昭和23年(1948) 岩波　11月

一数学者の記録　昭和23年(1948) 森北出版社　12月

数学教育の刷新　昭和24年(1949) 大阪教育図書株式会社

(四〇〇字詰)
機何學原稿用紙

講座 題

岩波講座

教育　　数学と教育

哲学

数学

計算法及びノモグラフィー

数学教育

物理学

物理学と哲学　(昭和15年9月)

(四〇〇字詰)
機何學原稿用紙